

新規事業採択時評価結果（平成19年度 新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	一般国道169号 奥漣道路（Ⅱ期）	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県新宮市熊野川町玉置口 至：和歌山県新宮市熊野川町九重			延長	5.2km
事業概要					
一般国道169号は、奈良県奈良市を起点として、紀伊半島内陸部を縦貫し、和歌山県新宮市に至る延長190kmの道路であり、奥熊野の日常生活の支えるとともに、観光地アクセスの経路として重要な役割を担っている。奥漣道路（Ⅱ期）は、奥漣道路に続く和歌山県新宮市熊野川町玉置口から和歌山県新宮市熊野川町九重に至る延長5.2kmの道路である。					
事業の目的、必要性					
奥漣道路（Ⅱ期）は、線形不良区間の解消及び異常気象時通行規制区間を図るとともに奥熊野へのアクセスを改善、強化し、地域産業の支援を目的とした道路である。					
全体事業費	103億円		計画交通量	2,100～4,000台／日	
事業概要図					
関係する地方公共団体等の意見					
奥漣道路（Ⅱ期）は、「国道169号直轄国道工事促進委員会」より、地域間の連携交流を強化し地域経済の活性化や高齢化社会に向けた福祉・医療面での連携、広域観光の振興、東南海・南海地震時のリダンダンシーの確保の観点から早期事業化の要望を受けている。					

事業採択の前提条件

費用対便益：便益が費用を上回っている。

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：木村 昌司

事業評価結果

費用対便益	B／C		2.0	総費用：79 億円 （事業費：75億円 維持管理費：4億円）	総便益 155 億円 （走行時間短縮便益：147億円 走行費用減少便益：7億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年 平成18年
	感度分析の結果		交通量変動	B/C=1.8（交通量 -10％）	B/C=2.2（交通量 +10％）	
			事業費変動	B/C=1.8（事業費 +10％）	B/C=2.2（事業費 -10％）	
			事業期間変動	B/C=1.8（事業期間 +20％）	B/C=2.1（事業期間 -20％）	
事業の影響	評価項目		評価	根拠		
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	【渋滞損失時間の改善】約2.5万人時／年→0万人時／年 【1kmあたり渋滞損失時間】約0.3万人時／年キロ 和歌山県平均：約1.6万人時／年キロ（0.2倍） 全国平均：約2.0万人時／年キロ（0.2倍）		
		事故対策	—	【死傷事故率】約56件／億台キロ（現況） 和歌山県平均：約99件／億台キロ（0.6倍） 全国平均：約103件／億台キロ（0.5倍）		
		歩行空間	—	注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	○	高次医療施設へのアクセス向上 北山村から二次医療施設（新宮市立医療センター）へ約5分の時間短縮（80分→75分）		
		地域経済	◎	隘路区間の解消。 幅員4m以下の区間2.7km、曲線半径15m未満23箇所、縦断勾配12%以上3箇所		
		災 害	◎	異常気象時における交通規制区間を解消し、災害に強い道路網を構築。 事前通行止回数 7 回／（過去 5 年）、延べ時間240時間／（過去 5 年）		
		環 境	—	注目すべき影響はない		
		地域社会	○	主要な観光地へのアクセス向上 走行性の向上により、基幹産業である観光産業（北山村：約 1 0 万人）を支援。		
	事業実施環境			—	注目すべき影響はない	

採択の理由

費用便益費が2.0と、便益が費用を上回っている。
また、当該事業箇所の並行現道に多数存在する隘路区間の解消や異常気象時通行規制区間の解消など当該事業の必要性効果は高いと判断できる。
以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。